

簡裁訴訟代理等能力認定考查対策講座〈無料公開セミナー〉
「2013 年度『認定考查』対策及び『第 12 回特別研修』履修に向けた心構え」

担当講師 司法書士 小山 弘

1 新人研修（裁判事務）の体系

- (1) 連合会の中央新人研修（後期）
2 の司法書士「特別研修」への架橋（裁判事務入門）
- (2) 全国 8 つのブロック協議会主催の新人研修
- (3) 各単位会の新人研修

2 司法書士特別研修（合計 1 0 0 時間）

- (1) 集合研修（約 1 2 時間）
 - ア 内容
民事訴訟法の基礎理論
 - イ 研修の形態
予め収録された講義の D V D を大教室で試聴
 - ウ 講師
学者、裁判官、弁護士
- (2) グループ研修（約 3 6 時間）
 - ア 内容
具体的事案（設例）を解く
 - イ 研修の形態
グループ（受講者約 1 5 名）で討議する（予習の比重大）
 - ウ 講師
司法書士（チューター）
- (3) ゼミナール（約 1 8 時間）
 - ア 内容
基礎知識（グループ研修の効果）の確認
 - イ 研修の形態
グループ研修の 2 グループ（合計約 3 0 名）で双方向の講義
 - ウ 講師
弁護士
- (4) 模擬裁判（約 1 2 時間）
 - ア 内容
具体的事案について、実戦形式の訴訟を実演

- イ 研修の形態
グループ研修の 2 グループが、原告側と被告側とに分かれて対決
- ウ 講師
弁護士
- (5) 法廷傍聴（約 6 時間）
 - ア 内容
実際の訴訟事件を見聞する
 - イ 研修の形態
グループ研修の 1 グループを半分に分けて実際に法廷傍聴をする
 - ウ 引率
司法書士（チューター）
- (6) 司法書士倫理、簡裁代理権の範囲（約 4 時間）
 - ア 内容
裁判事務についての司法書士法及び司法書士倫理の知識
 - イ 研修の形態
講義（執務上の心構え等）
 - ウ 講師
弁護士

3 法務大臣認定考査

- (1) 実施する目的／特別研修の効果測定
- (2) 考査の実際
 - ア 内容
特別研修の研修項目全般
 - イ 出題形式
当事者（原告、被告）の言い分に基づいて、記述式で解答させる
 - ウ 難易度
- (3) 合格点／40 点（70 点満点）
- (4) 合格率

4 特別研修を効果的に受講し、認定考査に合格するために

- (1) 民法の基礎知識
- (2) 民事訴訟法の基礎知識
- (3) 研修教材の予習（必読図書、参考文献）
- (4) 復習（研修教材、過去問）
- (5) その他